

8-1 美作市の文化財保存活用区域設定の考え方

文化財保存活用区域は、美作市のなかでも特に多様な歴史文化遺産が集中して存在し、今も歴史文化を身近に感じることができる場所とします。

文化財保存活用区域が引き継がれるように、区域内の歴史文化遺産の保存と景観の保全に関する取り組みを積極的に行い、これらを核として活用しながら魅力的な空間を創出することを目的に設定するものです。

8-2 文化財保存活用区域の保存・活用に関する基本的な方向性

歴史文化遺産の価値を高める磨き上げを行うことで、市民に歴史文化遺産の価値を周知し、また地域振興に関する取り組みと連動し、その成果を今後、全市的に広げる先進モデル地区として取り組むこととします。その後、他の地域へも取り組みが波及し、反映していくことを狙います。

8-3 美作市の文化財保存活用区域

本市の文化財保存活用区域は、以下の3か所に設定します。

(1) 後山文化財保存活用区域

本市の特徴である修験道と製鉄が後山を中心に後山地区と中谷地区に広がり、それを体感できる場所です。修験道、製鉄の文化財を有機的に結び付け回遊することで本市の歴史を把握することのできる区域とします。

(2) 因幡街道文化財保存活用区域

本市の東部を南北に縦断する因幡街道を基軸とした文化の伝播がみられます。因幡街道沿線である古町地区、中町地区、下町地区、今岡地区、宮本地区を区域とします。

また、因幡街道沿線には、宮本武蔵生誕地の候補の一つとして、吉川英治が描いた『宮本武蔵』の舞台となった風景が広がります。因幡街道でつながる平福宿で武蔵は人生初の立ち合いをし勝利します。

交通によって形成された往時の姿を中心に沿線を含め保存活用する区域とします。

(3) 榎原・平福文化財保存活用区域

古くは山陽道美作支路推定路線(以下「美作古道」という。)や近世の出雲街道などの陸路や梶並川を利用した水路に沿って大型古墳の築造がみられます。また装飾された陶棺や銅印などあまり市内では例のない出土遺物が確認されています。また、古代寺院があったことも発掘調査でわかっています。津山市に所在する美作一宮中山神社の縁起を記した「中山神社縁由」には、中山神社の祭神が最初に榎原上に降り立たとされており、現在も降り立った神をもてなした東内家には宅地敷地内に「矛殿」が祀られています。

本市の原始から古代にかけての姿を巡ることで把握することのできる区域とします。

8-4 後山文化財保存活用区域の保存活用計画

(1) 概要

後山文化財保存活用区域は、豊かな自然に囲まれた後山を中心に広がります。後山は、中国山地の東側、本市の最東北端に位置し、岡山県下最高峰標高1,344mを誇ります。後山を含む船木山、日名倉山は氷ノ山後山那岐山国定公園に指定されています。

(2) 西の大峰山 後山

後山修験道の歴史を紐解くうえで、証拠となる古文書の類は、戦国時代の戦火や火災により焼失してしまいました。そのため嘉永7(1854)年に地元先達により、手元の資料と聞き取り調査でまとめられた「後山靈験記」に頼るほかありません。「後山靈験記」によると、後山は修験道の開祖である役小角(634~706年)によって開山されたとあります。その後衰退しますが、延喜9(909)年京都醍醐寺の開祖である至宝(理源)によって、行場を復旧し七堂伽藍を整備したとされます。現在行場を管理している道仙寺は、建長年間(1249~1255年)に僧徹雲によって、現在の後山キャンプ場付近に建てられましたが、室町時代から戦国時代にかけての戦火によって焼失し、文禄年間(1592~1595年)に現在の位置に建てられました。一方、道仙寺が管理する前の行場は、岡山県倉敷市を拠点に活動していた児島五流という修験者集団が、山名氏から宇喜多氏まで当地を支配した歴代の戦国大名の庇護を受け管理していました。大名からの寄進により後山周辺に12の坊を建立したとされます。現在はそのほとんどが地名などで痕跡を遺すのみですが、「中谷坊」は現在の林家住宅【国】であるとされます。戦国大名の庇護を受けた児島五流によって、繁栄した後山でありましたが、慶長5(1600)年の関ヶ原の戦いで宇喜多氏のついた西軍が敗れたため、児島五流は大きな後ろ盾を失い後山から撤退します。

江戸時代に入ると戦乱のない安定した世の中で、次第に人々は詣でと称して様々な神社仏閣にご利益を求めて出かけていきます。児島五流が去ったあとの後山でも道仙寺が中心となって、後山復興に向けて取り組み、次第に参拝者を増やしていき

ました。参拝ブームの波に乗って、天保14(1843)年には、真言系の修験道を束ねる京都醍醐寺三宝院より先達の任免をする権限の許可を得ています。

行場は、奥の院を境に後山の東と西にあり、奈良吉野の大峰山に倣って48の行場が作られました。行場ごとにはそれぞれ神文がありましたが、現在では25編遺るのみです。行場へは今も女人禁制となっており、女性は母護堂までの参拝とされてい



写真78 奥の院での護摩



写真79 後山行場

ます。奥の院までの参道には、距離を示す丁石や修験道開祖である役小角像などの石造物が信者によつて寄進されています。行者をはじめ多くの参拝者が訪れたことから、また後山へ入山する参拝者のため、道端には道標が置かれ、訪れる参拝者が多かったことを物語っています。

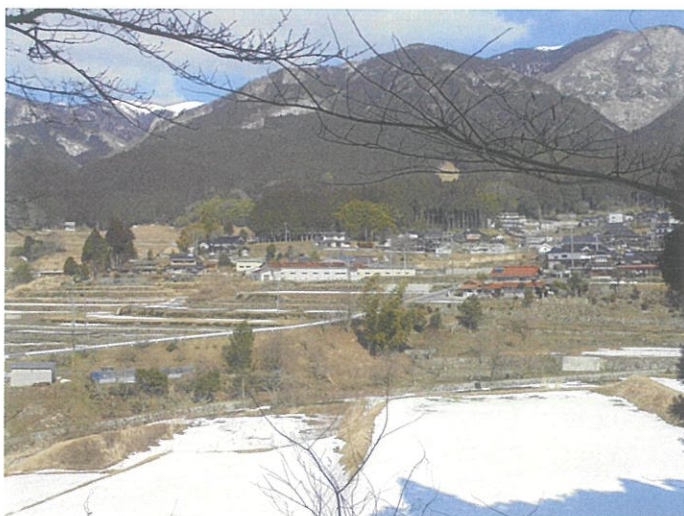


写真80 後山地区の棚田

(3) 後山地区のたたらか製鉄

後山地区には、修験道の行場以外にもたたらか製鉄を行う上で豊富な資源という性格もありました。江戸時代に国内で生産された鉄の8割以上が中国山地で作られたものとされており、中国山地の東端に位置する後山においても盛んに鉄が作られました。特に後山、西粟倉村大茅、宍粟市千種一帯で製鉄が行われていたことが元禄13(1700)年の古文書(兵庫県立歴史博物館「近世播磨の製鉄史料集」2020年)などで分かっています。

現在でも中谷、後山地区内のいたるところで製鉄の際に生じるカスである「鉄滓」が採集できます。発掘調査が実施されたマナゴウ遺跡や三月田遺跡では、炉跡や炉壁などが確認されており、製鉄が盛んに行われていたことが古文書以外でもわかります。後山地区の東側に位置する兵庫県宍粟市千種町は、出雲にある金屋子神社祭文によると金屋子神が最初に降りた地とされており、その後現在の島根県広瀬町(現：安来市)へと移ったとされます。隣接する兵庫県宍粟市の千種で生産された鉄は、備前刀の作刀で重宝された「千種鉄」として高い評価を得ていたとされます。千種鉄の運搬ルートには、製鉄された場所によって、兵庫県内を通る千種川ルートと本市を通る吉野川ルートがあり、後山で製鉄された鉄も千種鉄として運搬されていたことが類推されます。

中谷、後山地区は、山間部に開かれたなだらかな傾斜を持つ地域ですが、これらの地形は製鉄の原料である砂鉄を採掘する鉄穴流しの跡の姿と考えられます。鉄穴流しの跡地は、現在圃場が造成されていますが、一部が棚田として鉄穴流しの痕跡を遺しています。また後山から中谷地区にかけて1km以上続く林道が鉄穴流しの水路跡とされています。鉄穴流しは、江戸時代には下流に濁水が流れ込み水田に被害が生じるとして、下流の村による歎願書が提出されるなど古文書(平尾家文書明治13(1880)年に「文化年中から天保12(1841)年に同様の訴えがあったとの記述あり)などでもたたらか製鉄されていたことがわかっています。隣国播磨の商人が後山でのたたらか製鉄を取り仕切っていましたが、明治に入ると「林家住宅」や古町大原宿の住人が後山でのたたらか製鉄事業に携わったことも記録(明治7(1874)年「田中次郎所蔵文書」ほか)として遺っています。今も林家住宅【国】では、敷地内に製鉄を司る「金屋子神」の祠を見ることができます。

(4) 課題

- 課題① 後山修験道の専門的な研究が行われていない。また奥の院へ続く参道が近年の異常気象による豪雨などで崩落や石造物に破損が見られる。後山修験道の周知が不足している。
- 課題② 製鉄遺跡の詳細調査が少ないため、製鉄がどのように行われていたかの周知が不足している。
- 課題③ 保存活用工事の終了した林家住宅【国】と地域との連携した取り組みが不足している。

(5) 保存活用への取組の方針

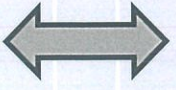
- 方針① 後山修験道の詳細と奥の院参道の行場及び石造物などの詳細把握に努め、西の大峰山といわれた後山修験道の周知に努める。

方針② 製鉄遺跡の詳細な調査等を実施し、区域内での製鉄業の変遷の把握に努める。

方針③ 民間業者によって実施されている林家住宅の活用事業と連携し、相互に価値の磨き上げとなる事業に取り組む。

(6)措置

表25 後山保存活用区域措置一覧

事業番号	事業名	第6章措置番号	措置の内容	取組主体					事業計画期間			財源
				地域	所有者	専門機関	保護団体	行政	前期	中期	後期	
73	奥の院参道悉皆調査	3	奥の院参道に点在する行場を含む文化財の詳細悉皆調査を行う。		○		○	○				市
74	後山修験道詳細調査	4	後山修験道に関する詳細調査を行う。		○	○		○				市
75	後山宿坊確認調査	4	12か所あったとされる宿坊の確認調査を行う。		○	○		○				市
76	後山行場VR体験	14	修験道の行場である後山の行場を仮想体験できる技術等を導入する。		○	○		○				国・市
77	茅場体験教室	6	国の「ふるさと文化財の森」に指定された後山の茅場に茅職人を講師に体験教室を開催する。	○	○			○				国・市
78	後山製鉄遺跡詳細調査	3・4	後山を中心に存在する製鉄遺跡について詳細把握のための確認調査を含む調査を行う。			○		○				市
79	林家住宅宿泊サービスのふるさと納税返礼	28	林家住宅の宿泊サービスをふるさと納税の返礼品とする。		○		○	○				市
80	林家住宅周辺整備事業	28	林家住宅活用に関する周辺整備を行う。		○			○				国・市

◎:主導団体 ○:連携団体 △:補助団体

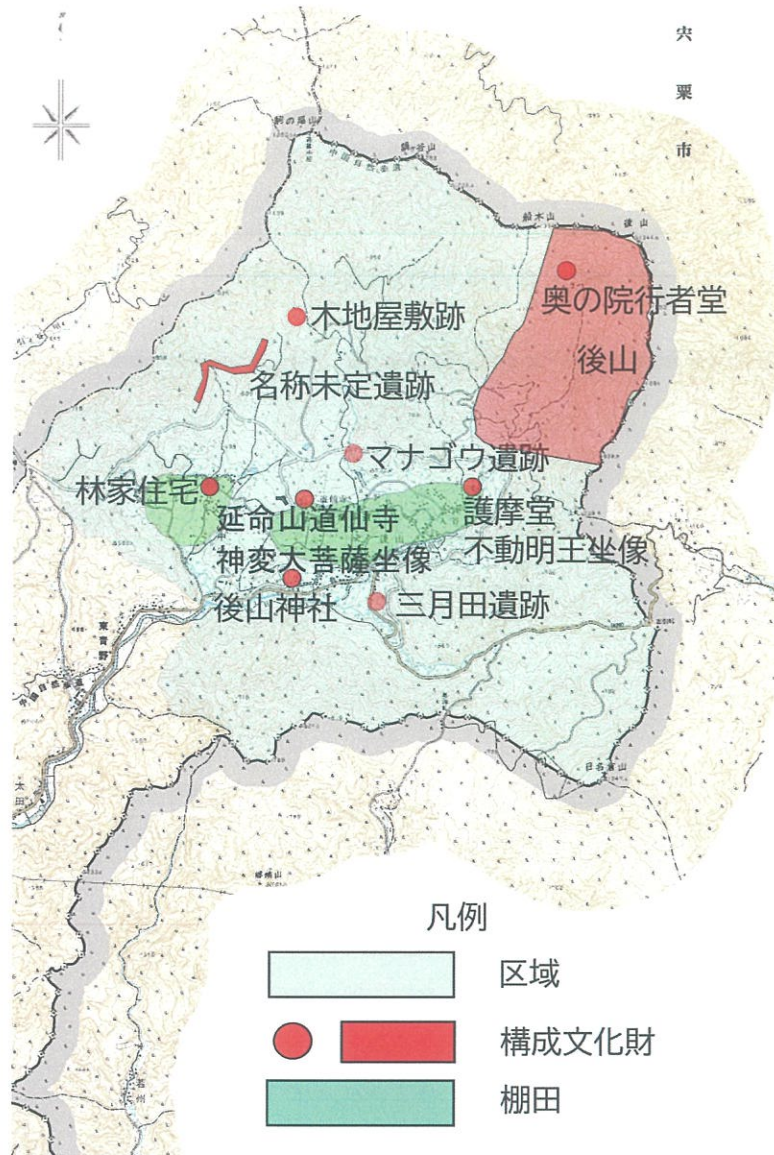


図21 後山保存活用区域全体図

表26 後山保存活用区域を構成する主要文化財一覧

名称	種別	時代	所在地	概略	備考
後山	民俗文化財 無形の民俗文化財		後山	『後山霊験記』には役行者が齊明天皇4(658)年に後山に登り開山し、地藏菩薩と蔵主権現を安置し、その後行基が上り、山王宮と不動明王を安置し7堂大伽藍と8坊を建立し、修験の場となったという。	
護摩堂	有形文化財 建造物		後山	9月7日、8日に奥の院と護摩堂(女人堂)において、紫燈大護摩供養が行われる。起源は宇多天皇の命により理源大師が柴燈護摩供の秘法で毒蛇を退治したということから伝わる。不動明王坐像【市】が安置されている。	
延命山道仙寺	有形文化財 建造物		後山	本堂は木造平屋建、入母屋造、銅板葺。真言宗醍醐派。庫裏は木造平屋建。観音堂左側に神変大菩薩坐像【市】が安置されている。	
奥の院行者堂	有形文化財 建造物	江戸時代	後山	慶長19(1614)年に天災により焼失。宝暦8(1758)年、真澄上人が本堂を再建。天保年間(1830～1843)、僧舜応が石垣を改築。	
後山神社	有形文化財 建造物		後山	祭神大己貴命、萱田別命。社殿:本殿 拝殿 幣殿 社務所 神門。本殿は木造平屋建、流造。拝殿は木造平屋建、入母屋造、銅板葺。	
林家住宅	有形文化財 建造物	江戸時代[天明6(1786)年]	中谷	主屋、長屋門、米倉、衣装倉の4棟が指定。大内氏・毛利氏が児島五流家に命じて後山復興のため12坊を建立させた中谷坊を木曾氏が来住して改築、住宅としたものが現在の林家住宅という。主屋、長屋門は現存する板絵図から天明6(1786)年のものと考えられる。現在、民間事業者により活用。	国指定
三月田遺跡	記念物 遺跡	江戸時代	後山三月田	後山集落の南側から南東へ延びる谷の入り口付近、西へ傾斜する小尾根の先端部分の緩斜面上。発掘調査実施。鉄滓層のほか溝、炉確認。	
マナゴウ遺跡	記念物 遺跡	室町～江戸	後山	後山集落の北、道仙寺川の流れる谷筋の入口付近の西に下がる緩斜面。発掘調査実施。高殿そのものは不明だが、何らかに関連する平坦部と柱穴を確認。	
名称未定遺跡	記念物 遺跡	江戸時代	中谷	鉄穴流しの跡とされる。山の東側斜面を削平し、細長い平坦面を形成。1km以上続くが現在は林道となっている。	
木地屋敷跡	記念物 遺跡		後山道仙寺深山	昔木地師が住んでいたと伝えられる。石垣や一矢を積み上げた壇の跡、池の跡などが見られる。製鉄遺跡か？	

(主な文化財を掲載。詳細は資料リスト)

8-5 因幡街道文化財保存活用区域の保存活用計画

(1) 概要

因幡街道が通る周辺は、県下唯一の活断層である大原断層が走っています。大原断層を南北に貫く断層が存在する可能性が指摘されています。古町は、大原断層とこの南北の断層に挟まれた形で平野を形成し、断層に沿った形で街道が整備されたと考えられます。

(2) 因幡街道

因幡街道が整備される以前から山陽と山陰を人々が往来していたことが遺跡などから確認されています。中国横断自動車道姫路鳥取線建設に伴う発掘調査では、八幡山遺跡、尾崎遺跡、穴が谷遺跡から山陰地方の特徴を持つ土器が出土し、中町B遺跡、高岡遺跡からは、播磨地方の特徴を持つ土器が出土しています。さらに穴が谷遺跡では遠くは大阪府と奈良県にまたがる生駒山西麓で作られた土器が出土しています。八幡山遺跡を含む周辺の遺跡では、香川県坂出市で産出するサヌカイトを素材とした打製石器が出土しています。また八幡山遺

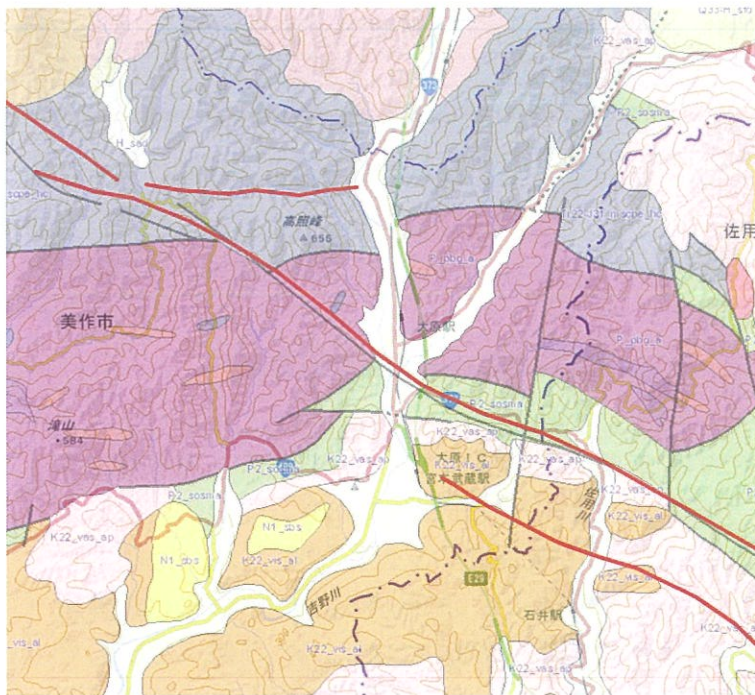


図22 周辺地質図(赤線が大原断層)

跡からは、国外の朝鮮半島製の鉄器を再加工したものなども出土しており、当時の先進地の交易品が行き交う交通の要衝であったことがわかります。

中町B遺跡では古代の道路状遺構が確認されており、「因幡古道」と推定されています。因幡古道推定の沿線には、古代寺院である今岡廃寺跡が発掘調査で確認され、隣接する今岡遺跡からは、墨書土器や円面硯が出土しています。尾崎遺跡からは石帯といわれる役人が付けたベルト、高級陶器の印刻花文緑釉陶器など官衙的要素を持つ遺物が出土しています。また古代の焼塩土器なども出土しており沿岸部との交流が確認されています。一方で文献からは、因幡の国司である平時範が赴任先から京に戻る際に「美作国佐奈保」で一泊したことが、彼の日記『時範記』の記載されています。「佐奈保」とは今岡遺跡周辺の「讃甘郷」のことです。このことから、因幡古道推定の沿線が交通の要衝であったことがわかります。

中世には、因幡古道推定の沿線である山王山地域の拠点小原山王山城【市】が築かれま

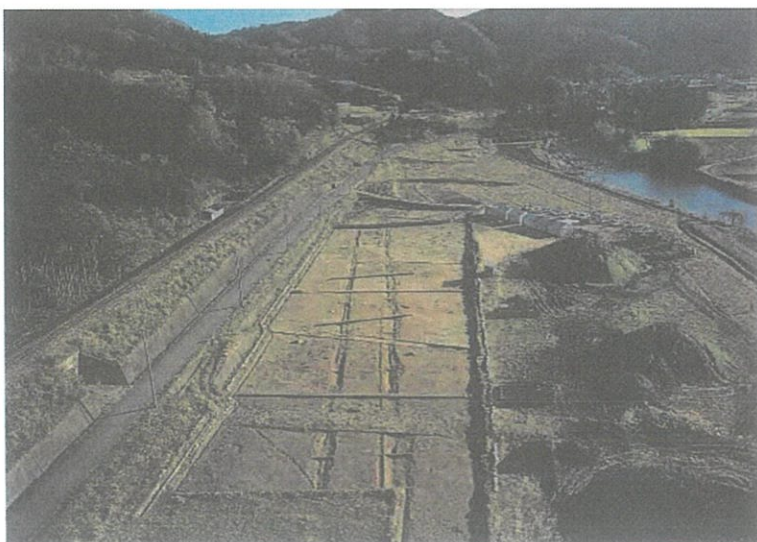


写真81 中町B遺跡で確認された因幡道跡
(岡山県教育委員会提供)

す。室町時代に入ると、赤松氏と山名氏による領地争いの攻防地となり、次第に不安定な戦国時代に入っていきます。当時、地域の拠点であった小原山王山城を治めていた新免氏は、明応2(1493)年に「吉野郡一の大城」呼ばれた竹山城に拠点を移します。山名氏と赤松氏の衰退から、山陰の尼子氏と山陽の宇喜多氏の台頭により領地争いの主は変わりますが、依然として山陰と山陽を結ぶ要衝であったため、陣取り合戦の最前線となります。最終的には宇喜多氏の配下となりますが、宇喜多氏は関ヶ原の戦いで西軍につき敗れたため、新免家は東軍に属した黒田家に召し抱えられ九州へと渡っていきます。



写真82 大原宿の田中酒造場(国登録)

近世に入ると姫路と鳥取を結ぶ因幡街道が整備され、古町地区には宿場が置かれます。鳥取藩主など大名が宿泊する本陣、大名に次ぐ身分が宿泊する脇本陣などが現在も遺っており、周辺の町家と合わせて往時の面影を今に伝えています。大原宿は当初、津山藩森家の支配下でしたが、元禄10(1697)年に森家が断絶となると幕府領となります。そのため元禄11(1698)年には、古町に代官陣屋がおかれました。享保18(1733)年の古町村の大火により代官陣屋が焼失したため、下町へ移転しています。今では石垣の一部を遺すのみとなっています。

平成6(1994)年には鳥取から兵庫、大阪、京都とつなぐ智頭急行が運行を開始し、平成20(2008)～平成25(2013)年には姫路と鳥取をつなぐ鳥取自動車道が開通し、古代から現代にいたるまで山陰と山陽をつなぐ交通の要衝となっています。

(3)宮本武蔵の伝承

因幡街道の美作と播磨の国境に剣豪宮本武蔵生誕地の候補である宮本地区があります。生誕地については、播磨にも高砂市や太子町、加古川市など生誕の候補地が複数あります。いずれの生誕地説でも武蔵の姓は「新免(神免)」としています。戦国時代に竹山城で宮本村含む作州吉野郡を治めたのが新免氏であり、武蔵の父新免武仁は、新免氏の家臣とされています。新免武仁は、当地を去った後に黒田家へ士官したとされます。その関係からか慶長5(1600)年の関ヶ原の戦いの後に新免氏は黒田家に召し抱えられています。宮本地区には、伝宮本武蔵生家跡【県】をはじめ、武蔵の二天一流創設のヒントとなったとされる讃甘神社など宮本武蔵の伝承が数多く伝わっています。因幡街道をとって、播磨の平福宿で宮本武蔵は生涯初の果し合いを行い、勝利したとされています。

(4)課題

- 課題① 古町の町並みを形成する本陣の一部を含む建造物が空家や無住化により著しい破損若しくは解体され、町並みの維持が困難となっている。
- 課題② 宮本武蔵に関連した展示物が資料館閉鎖により、活用できない状況となっている。
- 課題③ 古町の町並みと宮本武蔵生誕地の一体となった活用が不足している。

(5)方針

- 方針① 古町の町並みを構成する建造物の再調査を行い、現状把握に努め、建造物の価値を周知する。
- 方針② 宮本武蔵に関連する史資料の公開に努める。
- 方針③ 宮本武蔵生誕地と古町の町並みを一体とした活用に努める。

(4)措置

表27 因幡街道文化財保存活用区域措置一覧

事業番号	事業名	第6章措置番号	措置の内容	取組主体					事業計画期間			財源
				地域	所有者	専門機関	保護団体	行政	前期	中期	後期	
81	古町の町並み悉皆調査	3	昭和61(1986)年に実施された調査から40年近く経過しているため改めて調査を行う。	○	○	○		○				国・市
82	町並み保存地区の文化財選定	27	古町の町並み保存地区の伝統的建造物群保存地区選定を目指す。	○	○	○		○				国・市
83	歴史的風致維持向上計画策定	27	町並み保存地区を中心とした史跡などの整備を行う。	○	○	○		○				国・市
84	町並み保存地区内の空き家バンク登録推進	27	町並み保存地区内に所在する空き家所有者に空き家バンク登録を推進し活用を目指す。		○			○				市
85	二天一流継承事業	6	宮本武蔵創設の二天一流後継者育成のため講師を招聘する。					○				国・市
86	智頭線で武蔵と町家を巡る。	6	地区内小学校の郷土学習として、智頭線を利用して宮本武蔵の伝承地や現地で町並み建築の特徴などの説明講座を開催する。					○				市
87	古町～武蔵連結事業	3	古町の町並みと宮本武蔵関連をつなぐ地域の文化財の掘り起こしと魅力向上することで回遊ルートを設定する。					○				市
88	宮本武蔵資料館	12	宮本武蔵関連資料を展示する。					○				市
89	武蔵関連伝承地の多言語化看板の設置	28	宮本武蔵に関する伝承地等への多言語化対応を行う。					○				国・市
90	武蔵関連伝承地のICT活用	28	宮本武蔵に関する伝承地等への回遊のためのWifi環境を整備する。					○				国・市

◎:主導団体 ○:連携団体 △:補助団体

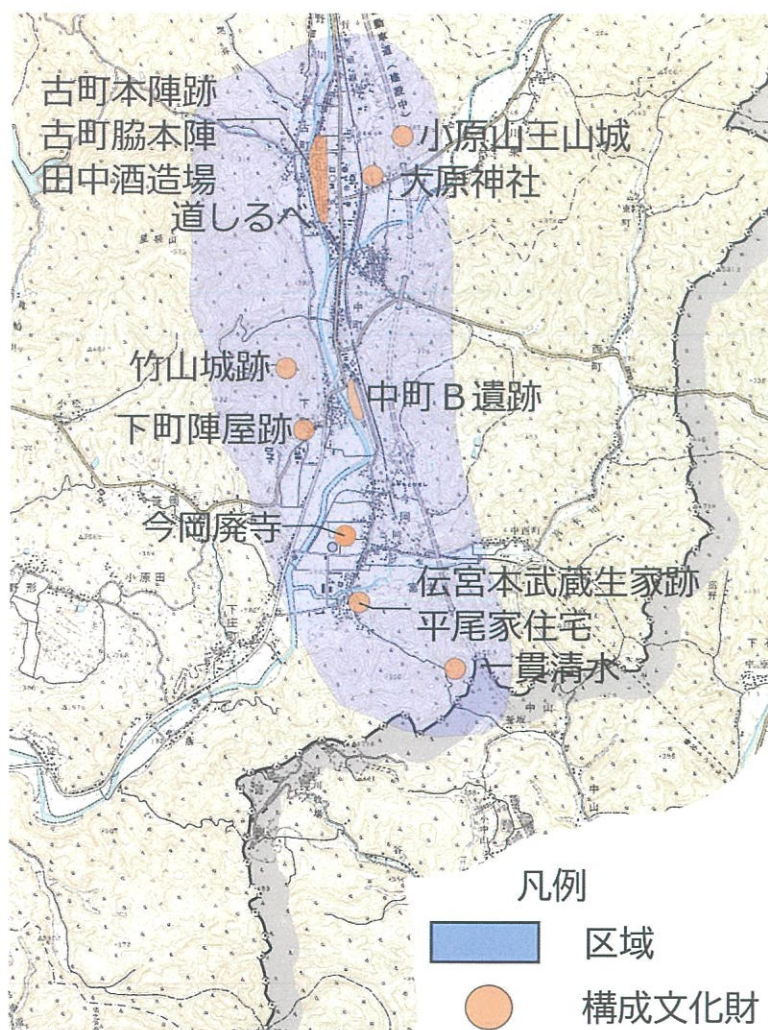


図23 因幡街道文化財保存活用区域 全体図

表28 因幡街道文化財保存活用区域を構成する主要文化財一覧

名称	種別	時代	所在地	概略	備考	
古町本陣跡	有形文化財	建造物	江戸時代	古町	宝暦11(1761)年に成立、天明年間(1781～1789年)に火災で焼失以降再興修復を加え現在に至る。5部屋からなる小規模な数寄屋造りの御殿と大規模な居宅部分とからなる。	市指定
古町脇本陣涌元家	有形文化財	建造物	江戸時代	古町	木造つし二階建、切妻造、棧瓦葺。「有元家文書」の中には「脇本陣米屋」とある。現在の遺構は文政年間(1818～1831年)のものとされている。	
田中酒造場	有形文化財	建造物	近代	古町	旧因幡街道筋の大原古町中央部に位置する。現在も酒蔵として使用。	国登録
小原山王山城跡	記念物	史跡	室町時代	古町	大原神社西側の山頂付近。本丸の一部が対空監視哨によって破壊。山腹の数カ所に縦堀あり。赤松氏の一族小原信明が在城とされる。後に新免氏居城となる。	市指定
大原神社	有形文化財	建造物		古町	出雲から大己貴命を勧請したという。古町字西山の炭釜山にあったという。切妻両流れ造り三間社の神殿は、寛文8(1668)年津山藩主森長継の寄進である。明治6(1873)年に日吉山王宮を郷社大原神社と改め同13(1880)年に隨身門を新築された。	市指定
道しるべ	有形文化財	石造物		古町	更正橋の東たもとにある。東西南北4面に銘あり「西はより右津山道」「東元禄二己巳年三月日」(1689年)「北はより左播磨ひらふく道」「南」	
竹山城跡	記念物	史跡	室町時代	下町笹岡	吉野川西岸、山頂部。明応2(1493)年より慶長5(1600)年まで新免三代108年の居城と伝える。	市指定
下町陣屋跡	記念物	遺跡		下町	吉野川西岸、大原小学校の北約50m付近。代官所跡。	
中町B遺跡	記念物	遺跡	鎌倉～室町	中町	道路上の遺構を確認。播磨国佐用郡と因幡国府を結び因幡道と比定。	
一貫清水	民俗文化財	有形の民俗文化財		下町	山陰山陽の連絡の因幡街道の釜坂峠の八合目あたりで年中変わらない冷たい水が湧いている。旅人が立ち寄り喉を潤し「ほんに壹貫文の値打ちがある」と言って峠を越えていったことから壹貫清水の名がある。参勤交代の鳥取藩士湯は峠茶屋でこの清水を金の茶釜で湧かしたお茶で休息をとり峠を越えていった。また、武蔵もふる里を後にする時竹馬の友森岩彦兵衛と別れを惜しんで飲んだのもこの壹貫清水であると伝わる。	
今岡廃寺	記念物	遺跡	白鳳時代	今岡	吉野川左岸低段丘上。圃場整備に伴い発掘調査実施。方約一町の寺域確認。伽藍配置不明。	
伝宮本武蔵生家跡	記念物	史跡		宮本	生家は元々約60m四方の大きな構(かまへ)の中に立つ大きな茅葺の家で、神社のそばにあったことから“宮本の構(みやまのかまへ)”と呼ばれていた。建物は昭和時代に火災により焼失、昭和17(1942)年に現在の瓦屋となった。大黒柱の位置は昔と変わらないと伝わる。	県指定
平尾家住宅	有形文化財	建造物		宮本	宮本武蔵の姉「おぎん」が嫁いだとされる。家屋は、10間に5間半、江戸後期の建設という。葺きの民家としては大原地域で最も古く大きい。「元屋敷」という地名がついている。庭は「心」字に掘った見事な石組みの泉池がある。	

(主な文化財を掲載。詳細は資料リスト)

8-6 檜原・平福文化財保存活用区域の保存活用計画

(1)概要

檜原・平福文化財保存活用区域の西端は、美作市最大の平地である豊国・檜原を望む梶並川の河岸段丘で、東端は吉野川を望む小平野となっています。吉井川の支流である梶並川と吉野川と東西に走る近世に整備される出雲街道以前の山陽道美作支路推定線(以下「美作古道」という。)に沿って様々な文化財が築かれています。

(2)連綿と続く支配層の痕跡

梶並川をはさんで美作市最大の平地を望む檜原地区には、市内最大最古級の古墳である檜原寺山古墳【市】をはじめとして、古墳時代前期から古墳時代中期後半に至るまで、上経塚古墳群^{かみきょうつか}や金焼山古墳^{きんやけやま}が築かれます。吉野川を望む平福地区には、古墳時代後期から古墳時代終末期に至るまで前方後円墳である録青塚古墳^{ろくしょうつか}【市】と文様が施された陶棺が出土した野寺山古墳が築かれます。



写真83 檜原寺山古墳【市】

古代に入ると檜原地区には、美作古道に沿って、白鳳寺院である檜原廃寺跡が築かれます。また岡山県下でも出土例の少ない銅印が檜原廃寺同様に美作古道周辺で確認されています。

これらの遺跡・遺物はいずれも支配層が築き、所持するものとされています。檜原・平福文化財保存活用区域では、有力な支配層が連綿と存在したことを示す痕跡を見つけることができます。

(3)美作一宮祭神の出現地

津山市にあります美作一宮中山神社の祭神には諸説ありますが、『中山神社縁由』によると祭神は鏡作命で当初は英多群檜原郷に降りたつたとされます。その後20日あまり滞在し、津山市西田辺に立ち寄り現在の中山神社に鎮座したとあります。鏡作命が降り立った際に厚くもてなしたのが東内家と書かれています。中でも東内社家^{とうないしゃけ}といわれた5戸には矛殿が祀られています。東内社家は中山神社の社家



写真84 東内家矛殿

として、津山市西田辺で祭神をもてなした有木家と特別な地位にあったとされます。現在も矛殿が遺っており、美作一宮の祭神との深いかかわりを見ることができます。

(4)檜原宿

近世に整備された出雲街道の宿場町として檜原宿も整備されました。西の勝間田宿と東の土居宿の中間の休憩地として整備されましたが、明治の大火により町並みのほとんどが焼失したとされます。現在はわずかに人舁跡^{ひとますあと}の礎石の一部と通路両脇の用水溝のみとなっています。

(5)課題

課題① 古墳が山中にあるため周知することが不足している。

課題② 矛殿の周知と一部無住となっているため維持が困難となっている。

(6)方針

方針① 市内全体を含めた遺跡や古墳の周知を図る。

方針② 矛殿の現状把握に努める。

(7)措置

表29 檜原・平福文化財保存活用区域措置一覽

事業番号	事業名	第6章措置番号	措置の内容	取組主体					事業計画期間			財源	
				地域	所有者	専門機関	保護団体	行政	前期	中期	後期		
91	遺跡発見巡回マップ	28	市内に所在する遺跡の巡回マップを作製する。				○	◎					市
92	古墳・遺跡看板の作成	28	檜原寺山古墳を中心とした遺跡の多言語化看板を作成する。		○			◎					国・市
93	矛殿総合調査	3	矛殿の詳細把握調査を行う。		○	○		◎					市

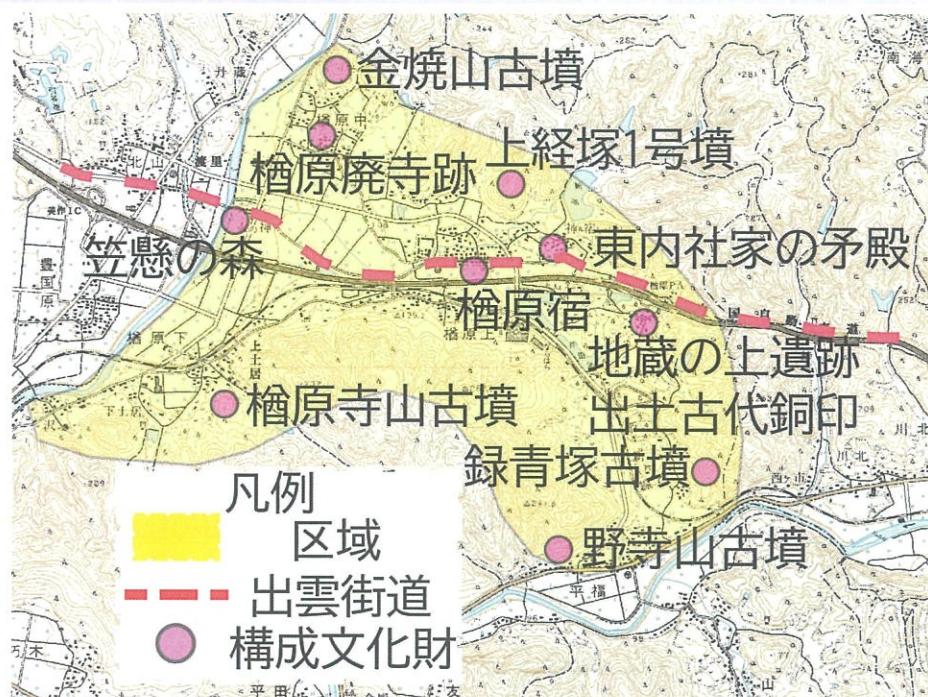


図24 檜原・平福文化財保存活用区域 全体図

表30 檜原・平福文化財保存活用区域を構成する主要文化財一覧

名称	種別		時代	所在地	概略	備考
檜原寺山古墳	記念物	史跡	古墳時代	檜原下	古墳時代前期の前方後方墳。全長約54m。銅鏡【市】、土師器、甕、勾玉、鉄剣などが出土。	市指定
上経塚1号墳	記念物	遺跡	古墳時代	檜原上	檜原盆地に緩やかに延びる舌状台地頂上南先端。一辺22m、高2.5mの方墳。埴輪出土。	
金焼山古墳	記念物	遺跡	古墳時代	檜原中	独立山頂。全長35.7m、後円部高3.8mの前方後円墳。南東に開口する横穴式石室。長5.5m、幅1.4m。須恵器・土師器・埴輪・鉄鏃・馬具出土。	
緑青塚古墳	記念物	史跡	古墳時代	平福	古墳時代中期の前方後円墳。全長27mの前方後円墳。後円部高1.7m。竪穴式石槨と推測されるが盗掘を受ける。	市指定
平福野寺山古墳	記念物	史跡	古墳時代	平福	古墳時代終末期の古墳だが消失している。明治29(1896)年に両手を広げた人の左右に馬が描かれた陶棺が発見された。現在は東京国立博物館に所蔵。	市指定
檜原廃寺跡	記念物	史跡	古代	檜原中	7世紀末の白鳳寺院。瓦出土。礎石が遺る。丘陵緩斜面。圃場整備に先立ち確認調査実施。金堂あるいは講堂、塔、瓦窯等確認。須恵器、瓦・塑像出土。	市指定
地蔵の上遺跡出土古代銅印	有形文化財	美術工芸品	古代	平福	「吉」と刻まれた銅印。青銅製の鋳造品。印面は3.0cm×2.9cmの方形で、印の高さは3.7cmである。	市指定
東内社家の矛盾	有形文化財	建造物	現代	檜原上	東内家は、美作一宮の祭神が美作の地に降り立った際に厚くもてなしたとされる。東内家のうち東内社家と呼ばれる5戸の敷地内には矛盾が祀られていたが、現在は4戸となっている。	
笠懸の森	記念物	史跡	室町時代	檜原中	史跡内にはムクノキやエノキの大木がある。後醍醐天皇が隠岐に流される笠を枝に懸けて休んだという伝説がある。	市指定
檜原宿	記念物	遺跡	江戸時代	檜原上	出雲街道が整備されたことで整えられた街村。人形跡が遺る。現在の広い道幅は当時のままである。人形は町の東端にあり、升形をかたどった二間四方の礎石の一部が遺っている。	